

都市再生整備計画 事後評価シート
平和・滝呂・笠原地区

平成23年2月

岐阜県多治見市

様式2 - 1 評価結果のまとめ

都道府県名	岐阜県		市町村名	多治見市		地区名	平和・滝呂・笠原地区			面積	513ha		
交付期間	平成18年度～平成22年度		事後評価実施時期	平成22年度		交付対象事業費	812百万円		国費率	0.399			
1) 事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路(市道122700線)、公園(笠原川親水公園)、地域生活基盤施設(自転車駐輪場、市道122700線情報板、防災倉庫、耐震性貯水槽、(仮称)滝呂運動広場)、高質空間形成施設(ポケットパーク)										
		提案事業											
	事業名												
	当初計画から削除した事業	基幹事業	道路(県道豊田多治見線)		名称を変更したため(県道豊田多治見線 市道笠原南北線)				名称を変更したのみであるので実質影響なし				
		提案事業	まちづくり活動推進事業(啓発・研修活動)地域協議会の設立運営		事業内容を精査し、実際の事業内容に即した事業名称に変更したため。				名称を変更したのみであるので実質影響なし				
新たに追加した事業	基幹事業	道路(市道笠原南北線)、高質空間形成施設(カラー舗装)		名称を変更したため(県道豊田多治見線 市道笠原南北線)歩行者・自転車の安全の確保を図るため				指標1に影響するが、指標値は据え置く					
	提案事業	地域創造支援事業(交通安全施設整備事業(自転車歩行者用通路))、事業活用調査、まちづくり活動推進事業(住民参加のまちづくり活動支援)		関連する県の事業が完成する見込みがなくなったため、自転車歩行者用通路の整備を行う必要があったため。目標指標の達成状況を調査する必要があるため、事業内容を精査し、実際の事業内容に即した事業名称に変更した				名称変更や本来、他事業で整備されていたものに対する補完事業であるため影響なし					
交付期間の変更	当初	-		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響				-					
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	自転車歩行者専用道路の利用者数増加	延人数/12h	1,282	H17	1,700	H22	モニタリング	評価値	1,871	あり なし	事業により基盤整備が整ったことで、自転車歩行者数が増加した。	平成23年7月
	指標2	防災対策に対する地域満足度の向上	ポイント(5段階評価)	2.85	H15	3.5	H22	2.69	2.95	あり なし	防災倉庫や耐震性貯水槽などの防災施設整備は完了しており防災対策に対する地域満足度は微増している。	平成23年7月	
	指標3	犯罪件数の抑制	件数/年	6	H17	4	H22	4	3	あり なし	事業により地域間交流が促進され、犯罪件数が抑制された。	平成23年5月	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1	防災施設整備率	%	23.1	H17			モニタリング	評価値	61.5		整備率が大きく上昇し、笠原地区における防災拠点も確立され、事業の効果が発現している。	平成23年5月
4) 定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 市道122700線は、自転車や歩行者が増加しただけではなく、沿線住民が自発的に清掃活動を行うなど地域住民に愛されている。 平成17年に沿線地域のボランティアが周辺地区において井戸水の水质調査を実施し、災害時に利用可能な井戸の調査を実施したが、震災時に使用できるか不安があった。しかし、震災時でも安心して飲料水として利用できる耐震性貯水槽の整備により、地域住民の安心感が向上した。 耐震性貯水槽等の使用方法に係る訓練を実施し、非常時に備える活動を実施することにより、地域の防災への意識向上が図られている。 												
5) 実施過程の評価	実施内容												
	モニタリング	目標を定量化する指標の数値確認				実施状況				今後の対応方針等			
						都市再生整備計画に記載し、実施できた				今後モニタリングを実施			
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
住民参加プロセス	自転車歩行者専用道路の景観形成と新市の一体的な沿道のあり方				都市再生整備計画に記載し、実施できた				今後継続				
	沿道を含めた本専用道の管理について				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した								
持続的なまちづくり体制の構築	多治見市笠原地域審議会を活用したまちづくり				都市再生整備計画に記載し、実施できた				今後継続				
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した								
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									

様式2 - 2 地区の概要

平和・滝呂・笠原地区(岐阜県多治見市) 都市再生整備計画事業の成果概要					
まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標: 新市の一体感の醸成及び市民の健康づくりの増進・災害に強いまちづくり	自転車歩行者専用道路の利用者数増加	単位: 延人数/12h 1,282	H17 1,700	H22	1,871 H22
目標1: 両市街地を結ぶ自転車歩行者専用道路の整備を行い、新市の一体感の醸成を図る。	防災対策に対する地域満足度の向上	単位: ボイント(5段階評価) 2.85	H15 3.5	H22	2.95 H22
目標2: 健康づくり(ウォーキング、サイクリング、ジョギングなどでの利用)、環境負荷の軽減(自転車の利用促進)、緑のうるおい空間の充実(自転車歩行者専用道およびポケットパーク等)を図る。	犯罪件数の抑制	単位: 件数/年 6	H17 4	H22	3 H22
目標3: 避難路の確保や防災倉庫等を設置し、新市としての防災耐力の向上を図る。	防災施設整備率	単位: % 23.1	H17 -	-	61.5 H22
	単位:		H	H	H

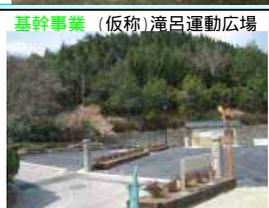
基幹事業 ポケットパーク

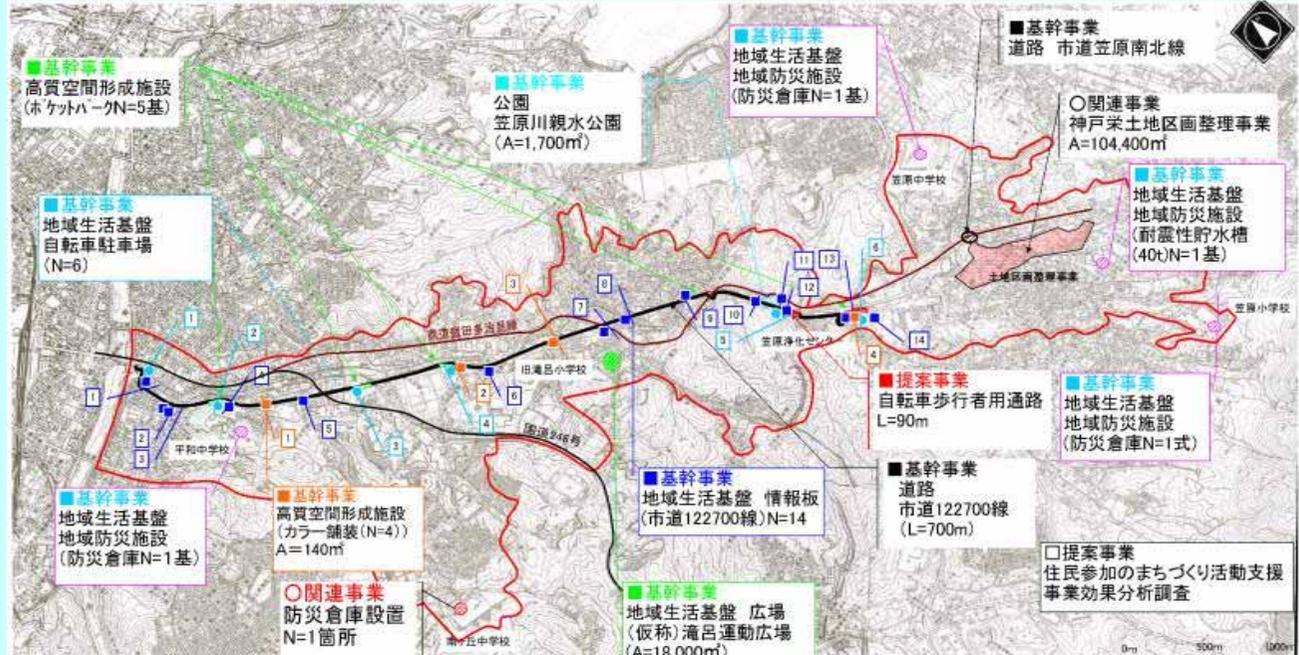


基幹事業 防災倉庫



基幹事業 (仮称)滝呂運動広場





基幹事業 耐震性貯水槽



基幹事業 市道122700線



提案事業 自転車歩行者用通路



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車歩行者専用道路の整備により、連続性が確保され、新市の交流が促進されたことにより利用者数が増加した。今後、旧笠原町中心市街地を含めた一体感の醸成を図る必要がある。 ・安全に利用できるエリアが広がり、ネットワーク形成によるウォーキングコースが増加したことによりウォーキング利用者が増加した。 ・自転車の利用増、歩行者増により、環境負荷の軽減が図られた。 ・耐震性貯水槽・防災倉庫の整備で防災拠点の充実が図るとともに、陶彩の径の整備により、安全な避難路が確立した。今後、住民の防災対策に対する地域満足度をさらに向上させることを目指す。 ・既設の道路の一部に暗い区間があり、防犯性の向上が必要である。 ・利用者増による不審者の増加が懸念される。・自転車の利用増、歩行者増により、自転車と歩行者の接触が懸念される。・車で来訪者の駐車場不足が懸念される。・自転車の利用増により、多治見駅の駐輪場の不足が懸念される。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・旧笠原町中心地域まで自転車歩行者用空間の連続性を確保し、さらなる利用者数の増加や一体感を向上させる。 ・沿道住民や利用者により、道路を常に美しく保ち、自転車歩行者専用道路(陶彩の径)を維持管理する。 ・防災訓練の実施により、地区の防災意識を高める。 ・街路灯の整備により、自転車、歩行者の安全性や防犯性を確保する。 ・マナー向上・啓発を行い、自転車歩行者の分離や交差点部の自動車への注意喚起により、歩行者と自転車の安全性向上させる。 ・既存施設の駐車場の利用や来訪者のための新たな駐車場について検討し、来訪者の駐車場不足に対応する。また、案内サインを充実する。 ・駅周辺地区の次期事業での整備やレンタサイクル制度の利用検討により、多治見駅前の駐輪場不足に対応する。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2 - 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2 - その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2 - 参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3 - モニタリングの実施状況
- 添付様式3 - 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3 - 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4 - 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4 - 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4 - 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5 - 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5 - まちの課題の変化
- 添付様式5 - 今後のまちづくり方策
- 添付様式5 - 参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5 - 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6 - 参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標					
B. 目標を定量化する指標					
C. 目標値					
D. その他()					

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道122700線	581	L=640m	500	L=700m	道路の終点を変更したことにより、道路を延伸する必要が生じ、事業量を変更する必要があるため。また、事業量の変更に伴い、全体の事業費の見直しを行い、コスト縮減を図った。	実施内容に変更がなく、影響なし		
道路	市道笠原南北線	-	-	90	交差点改良	名称変更のため追加(県道豊田多治見線 市道笠原南北線)道路管理者及び公安委員会との協議により、交差点改良区間を縮小したことから、事業費を変更する必要が生じた。	実施内容に変更がなく、名称変更であるため影響なし		
道路	県道豊田多治見線	200	交差点改良	-	-	名称変更のため削除(県道豊田多治見線 市道笠原南北線)	実施内容に変更がなく、名称変更であるため影響なし	-	-
公園	笠原川親水公園	50	A=1800㎡	50	A=1700㎡	計画を精査したことにより、事業量を変更する必要が生じたため。	実施内容に変更がなく、影響なし		
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	広場:(仮称)滝呂運動広場	50	A=18000㎡	50	A=18000㎡	なし	-		
地域生活基盤施設	自転車駐車場	10	25㎡ N=1	6	N=6	計画を変更したことにより、事業内容、事業費を変更する必要が生じた。	自転車歩行者専用道路の利用者数増加に係るが、目標値は据え置く。		
地域生活基盤施設	情報板:市道122700線	5	N=10	5	N=14	計画を変更したことにより、事業内容を変更する必要が生じた。	実施内容に変更がなく、影響なし		
地域生活基盤施設	地域防災施設:防災倉庫	16	30㎡(N=4)	8	N=3	当初予定した箇所のうち1箇所を別事業で整備したことから、事業内容、事業費を変更する必要が生じた。	関連事業で整備されたことから、影響なし		
地域生活基盤施設	地域防災施設:耐震性貯水槽	18	40t/基	53	40t/基	耐震貯水槽の工事契約を締結したことから事業費が確定し、事業費を変更する必要が生じた。	実施内容に変更がなく、影響なし		
高質空間形成施設	緑化施設等:ポケットパーク	40	ポケットパーク整備 N=3箇所	40	ポケットパーク整備 N=5箇所	計画を変更したことにより、事業内容を変更する必要が生じた。	自転車歩行者専用道路の利用者数増加に係るが、目標値は据え置く。		
高質空間形成施設	緑化施設等:カラー舗装	-	-	1	A=140㎡	歩行者・自転車の安全の確保を図るためのカラー舗装事業を追加した。	自転車歩行者専用道路の利用者数増加に係るが、目標値は据え置く。		

高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	交通安全施設整備事業 (自転車歩行者用通路)	-	-	2	L=90m	事業期間中に関連する県事業が、 当面、完成する見込みがなくなった。 そこで、事業効果を発現するため に、歩行者、自転車の安全を確保す る観点から、交通安全施設整備事業 の一環として、早期に自転車歩行者 用通路の整備(歩行者・自転車の動 線確保)を行う必要があるため追加 した。	本来、他事業で整備されていたものに対する補完事業である。自転 車歩行者専用道路の利用者数増加に関係するが、目標値は据え置 く。		
事業活用調査	事業効果分析調査	-	-	4	事業効果分析	事後評価の実施に際して、目標指標 の達成状況を調査する必要が生じ たため。	実施内容に変更がなく、影響なし		
まちづくり 活動推進事業	住民参加のまちづくり活動支援	-	-	3	地元自治会が行う陶 彩の道等の清掃活 動に対して、掃除道 具等を整備する。	地域協議会設立の準備段階で地元 と協議を行ったところ、すでに地元自 治会が活動を行っていたため、当該 活動に対する支援を行うことでま ちづくり活動の推進を図ることとし、 これに併せて事業名称を変更した。	実施内容に変更がなく、影響なし		
	まちづくり活動推進事業(啓発・研修活 動)地域協議会の設立運営	10	地域協議会の設置 運営	-	-	事業内容を精査し、上記内容に変更 したため削除	実施内容に変更がなく、影響なし	-	-

1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考) 関連事業									
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考	
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画			
神戸栄土地区画整理事業		神戸栄地区	1,879	1,879	平成16年度～平成23年度	平成16年度～平成27年度	平成21年度末現在 42.5% 平成20年11月5日に仮換地 指定を実施し、本格的に事業 着手。また平成19年度に調査 して確認された埋蔵文化財の 発掘調査も開始。平成23年 度には区域を貫く都市計画道 路が完成予定である。		
滝呂ハイパス		滝呂ハイパス(L=1540)	800	800	平成9年度～平成20年度	平成9年度～平成27年度	用地取得中		
地域防災施設事業		南ヶ丘中学校	-	1	-	平成19年度～平成19年度	整備済		

添付様式2 - 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考) 1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度 2		1年以内の達成見込みの有無		
			基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	事後評価	モニタリング	事後評価	あり	なし			
指標1	自転車歩行者専用道路の利用者数増加	延人数/12h 森前橋、大畑公民館前、平和歩道橋において、調査員を配置し、カウンタで自転車と歩行者数の計測を行い、評価値とする。平成22年7月に6:00～18:00の12時間計測した。	-		1,282	H17	1,700	H22	モニタリング			モニタリング			
									事後評価	確定 見込み	1,871	事後評価			
指標2	防災対策に対する地域満足度の向上	ポイント(5段階評価) 秘書広報課が行っている市民意識アンケート調査結果を使用する。調査は平成22年6月実施。昭和・滝呂校区の住民を対象にアンケート調査を実施し、満足:5点、やや満足:4点、やや不満:2点、不満:1点として集計し、評価値を求める。	-		2.85	H15	3.50	H22	モニタリング	H20	2.69	モニタリング	×		
									事後評価	確定 見込み	2.95	事後評価			
指標3	犯罪件数の抑制	件数/年 当該計画区域において、道路河川課が多治見警察署に聞き取り調査を実施し、過去5年間の児童が巻き込まれた声掛け案件から平成22年の数値を推計する。	-		6	H17	4	H22	モニタリング	H20	4	モニタリング			
									事後評価	確定 見込み	3	事後評価			

指標	目標達成度 × の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	平成22年7月に実施した利用者数調査の結果、12時間利用者数が1,871人であり目標値の1,700人を上回ったため、とした。	
指標2	市民意識アンケート調査から得られた数値が2.90で目標の3.50には至らなかったものの、従前値2.85を上回ったため一定の事業効果があったと判断したため、とした。	
指標3	推計結果から従前値の半分の件数が予想され、目標値の4件よりも少ないことから目標が達成されたと判断したため、とした。	
指標4		
指標5		

1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

2 目標達成度の記入方法

:評価値が目標値を上回った場合

:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

添付様式2 - その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考) ¹ 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
				基準年度		基準年度					
その他の数値指標1	防災施設整備率	%	-		23.1	H17	モニタリング			61.5	目標3「避難路の確保や防災倉庫等を設置し、新市としての防災耐力の向上を図る。」を定量的に評価するための指標として、広域避難所に位置づけられている防災拠点の防災施設整備率を指標に追加する。
							事後評価	確定	見込み		
その他の数値指標2							モニタリング				
							事後評価	確定	見込み		
その他の数値指標3							モニタリング				
							事後評価	確定	見込み		

¹ 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2 - 参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- 市道122700線は、自転車や歩行者が増加しただけではなく、沿線住民が自発的に清掃活動を行うなど地域住民に愛されている。
- 平成17年に沿線地域のボランティアが周辺地区において井戸水の水质調査を実施し、災害時に利用可能な井戸の調査を実施したが、震災時に使用できるか不安があった。しかし、震災時でも安心して飲料水として利用できる耐震性貯水槽の整備により、地域住民の安心感が向上した。
- 耐震性貯水槽等の使用方法に係る訓練を実施し、非常時に備える活動を実施することにより、地域の防災への意識向上が図られている。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3 - モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
目標を定量化する指標の数値確認	予定どおり実施した	モニタリングの実施状況は、指標2:防災対策に対する地域満足度の向上の数値計測をH19、H20に実施し、指標3:犯罪件数の抑制の地区内犯罪件数の確認は毎年実施している。実施結果は、指標2:防災対策に対する地域満足度の向上2.69ポイント、指標3:犯罪件数の抑制の地区内犯罪件数4件(中間のH20年度)	今後もモニタリングを継続
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3 - 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
自転車歩行者専用道路の景観形成と新市の一体的な沿道のあり方	予定どおり実施した	住民の意見を反映したまちづくりを行うため、合併(平成18年1月)を機に多治見市笠原地域審議会を組織し、以来平成22年2月までに17回審議会を開催している。当該協議会で122700線の延伸範囲や地元主体で命名した橋梁名の承認を得ている。	今後も継続
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
沿道を含めた本専用道の管理について	予定どおり実施した	平成19年から年1回、周辺住民による一斉清掃を実施している。清掃用具及び同保管庫を行政で用意し市民活動の支援を図っていく。	今後も継続
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3 - 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		体制構築に向けた取組内容	まちづくり組織名:組織の概要	
多治見市笠原地域審議会を活用したまちづくり	予定どおり実施した	多治見市笠原地域審議会を組織し、持続的なまちづくり体制を確立している。平成22年2月時点で、17回審議会を開催している。	旧笠原区域に居住する旧笠原町助役を含む10名の委員からなる多治見市笠原地域審議会 自転車歩行者専用道路の景観形成と新市の一体的な沿道のあり方の協議	今後も継続
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4 - 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
平和・滝呂・笠原地区事後評価検討会議	道路河川課、区画整理課、緑化公園課、情報防災課、予防警防課、用地課	平成22年9月8日(水)	道路河川課

添付様式4 - 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標1	指標3	その他の数値指標1	
指標名		自転車歩行者専用道路の利用者数増加	犯罪件数の抑制	防災施設整備率	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路(市道122700線)(陶彩の径)	-	・従来、通行に利用されていた県道豊田多治見線は幅員が狭く、歩道のない箇所があり、自転車や歩行者の通行に危険が伴っていたが、自転車歩行者専用道路である市道122700線(陶彩の径)整備により、自転車の走行空間や歩行空間が確保され、安全性が担保されるようになった。 ・笠原川親水公園やポケットパークなどの整備により、市道122700線(陶彩の径)の利用者の快適性向上に貢献している。 ・事業効果が発揮され、自転車歩行者専用道路の利用者が増加している。 ・市道122700線(陶彩の径)の整備により、健康づくりや環境負荷の軽減、緑のうおい空間の充実が図られ、地域間の交流が促進され、新市の一体感の醸成につながっている。	・市道122700線(陶彩の径)整備とともに街路灯も整備され、夜間利用者は安心感を持って通行できるようになった。また、夜間でも散歩などで利用されている。 ・公園やポケットパークの整備、まちづくり活動等により、地域内の交流が促進されている。 ・これらの事業効果により、地域コミュニティが活性化したことや人目につきやすくなったことから、犯罪件数の抑制に効果を発揮している。 ・自転車歩行者専用道が整備されたことにより犯罪件数が減少し、安心して利用できるようになったため、より多くの市民が健康づくりの場として当該道路を利用している。	・当該地区における整備率は、従前値23%であったが、本事業により62%まで向上した。 ・笠原地区において、未整備であった防災倉庫や耐震性貯水槽が整備され、防災拠点ができた。 ・災害時における避難路として市道122700線(陶彩の径)の活用が見込まれる。 ・避難路の確保や防災倉庫等の設置し、新市としての防災耐力の向上が図られており、災害に強いまちづくりにつながっている。
	道路(市道笠原南北線)	-			
	公園(笠原川親水公園)	-			
	地域生活基盤施設(仮称滝呂運動広場)	-			
	地域生活基盤施設(自転車駐車場)	-			
	地域生活基盤施設(市道122700線情報板)	-			
	地域生活基盤施設(防災倉庫)	-			
	地域生活基盤施設(耐震性貯水槽)	-			
提案事業	高質空間形成施設(ポケットパーク)	-			
	高質空間形成施設(カラー舗装)	-			
	地域創造支援事業(交通安全施設整備事業(自転車歩行者用通路))	-			
提案事業	事業活用調査(平和滝呂笠原地区)	-			
	まちづくり活動推進事業(住民参加のまちづくり活動支援)	-			
関連事業	神戸栄土地区画整理事業	-			
	滝呂バイパス	-			
	地域防災施設事業(南ヶ丘中学校)	-			

指標改善への貢献度

- ・事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ・事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- ・事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ・事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	地元が主体となったさわやかウォーキング等のイベントの実施。 整備された公園や自転車歩行者専用道路の延伸による地域間交流の増加推進	利用促進による地域コミュニティの形成 整備された公園や自転車歩行者専用道路の延伸による地域間交流の増加推進	防災施設の整備PR 地域防災力の向上 防災訓練等の実施
-------	---	--	-----------------------------------

添付様式4 - 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標2					
指標名		防災対策に対する地域満足度の向上					
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路(市道122700線)		市政への満足度として調査を行っているため、市全体としての防災対策として捉えられていることから、当該地区の整備の満足度へ反映されにくかったことや、近年の多治見市の災害はゲリラ豪雨による浸水害が意識の中に強く、震災時の整備に対する市民への関心が薄かったため、満足度が伸びなかったと推察される。 しかし、市民意識アンケート調査の結果、市民満足度が従前値よりも0.1ポイント増加しており、防災倉庫設置や耐震性貯水槽の整備、市道122700線(陶彩の径)整備などの事業を背景とし、効果は表れてきている。	分類			
	道路(市道笠原南北線)						
	公園(笠原川親水公園)						
	地域生活基盤施設((仮称)滝呂運動広場)						
	地域生活基盤施設(自転車駐車場)	-					
	地域生活基盤施設(市道122700線情報板)	-					
	地域生活基盤施設(防災倉庫)						
	地域生活基盤施設(耐震性貯水槽)						
	高質空間形成施設(ポケットパーク)						
提案事業	高質空間形成施設(カラー舗装)	-					
	地域創造支援事業(交通安全施設整備事業(自転車歩行者用通路))						
	事業活用調査(平和滝呂笠原地区)	-					
関連事業	まちづくり活動推進事業(住民参加のまちづくり活動支援)						
	神戸栄土地区画整理事業						
	滝呂バイパス						
	地域防災施設事業(南ヶ丘中学校)						

目標未達成への影響度
 × × : 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 × : 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 : 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 - : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

要因の分類
 分類 : 内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類 : 外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類 : 外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類 : 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	未完了事業の早期完成 防災訓練等によるソフト整備を行うことで整備された防災施設の周知や防災意識の向上を図る。		
------------------	---	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5 - 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
平和・滝呂・笠原地区事後評価検討会議	道路河川課、区画整理課、緑化公園課、情報防災課、予防警防課、用地課	平成22年9月28日(火)	道路河川課

添付様式5 - まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
多治見、笠原両市街地の一体感の醸成	自転車歩行者専用道路の利用者数が増加した。 自転車歩行者専用道路の連続性が確保された。 上記により、新市の交流が促進された。	新市において、旧笠原町中心市街地までの一体感の醸成を図る。	利用者増による不審者の増加の懸念 車での来訪者の駐車場不足 自転車と歩行者の接触 多治見駅の駐輪場の不足
市民の健康づくりの場としての有効活用	ネットワーク形成によるウォーキングコースが増加した。 ウォーキング利用者が増加した。 安全に利用できるエリアが広がった。	-	
自転車の利用促進による環境負荷の軽減	自転車の利用増、歩行者増により、環境負荷の軽減が図られた。	-	
地域の防災拠点および安全度の高い避難路(陶彩の径)の防災活動の充実	耐震性貯水槽の整備で防災拠点の充実が図られた。 陶彩の径の整備により、安全な避難路が確立した。	既設の道路の一部区間が暗く、防犯性が劣る。 防災対策に対する地域満足度の向上を図る。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5- A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5- B欄に記入します。

添付様式5 - 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	自転車歩行者専用道路の利用者数の維持・増加	道路を常に美しく保つ(利用者、沿道住民) 安全に通行できる空間の確保	植栽整備事業 道の愛護会の育成事業
	交流の促進	交流イベントの開催 笠原・滝呂のPR	イベント事業 PR活動事業
	防災活動の推進	年に1回の広域での防災訓練等により、防災意識を高める	自転車歩行者専用道路(陶彩の径)を利用した防災訓練

B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	旧笠原町中心市街地までの一体感の醸成	旧笠原町中心地域まで自転車歩行者用空間の連続性を確保し、さらなる利用者数の増加や一体感の醸成を図る。	自転車歩行者専用道路(陶彩の径)への接続整備 歩道整備
	防災対策に対する地域満足度の向上	本事業でハード整備が整ったため、防災施設の地域住民への周知や活用により、防災対策に対する地域満足度の向上を図る。	防災施設を活用した防災訓練の実施
	歩行者と自転車の安全性向上	マナー向上・啓発 自転車歩行者の分離 交差点部の安全性の確保(県道との交差点) 交差点部の自動車への注意喚起 自転車走行、歩行空間の連続性の確保 自転車、歩行者の安全性や防犯性の確保	交通安全教室の実施 交差点部の安全対策事業 歩道整備事業 既存道路の歩道拡幅事業 街路灯の整備
	来訪者の駐車場不足	総合体育館駐車場の利用 来訪者のための新たな駐車場の確保	案内サイン事業 駐車場整備事業
	多治見駅前の駐輪場不足	駅周辺地区の次期事業での整備、レンタサイクル制度の利用	駅北整備との連携

様式5 - の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

<input type="checkbox"/>	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4 -)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4 -)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	残された課題や新たな課題(添付様式5 -)を再確認した。

添付様式5 - 参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

陶彩の径を核とした多治見市全体におけるサイクリングネットワークを構築し、環境負荷の軽減を図り、低炭素社会を目指したまちづくりを推進する。

添付様式5 - 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-1、2-2に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-1、2-2から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が「又は×」の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	自転車歩行者専用道路の利用者数増加	延人数/12h	1,282	H17	1,700	H22	確定	1,871		あり	平成23年7月末	森前橋、大畑公民館前、平和歩道橋において、調査員を配置し、カウンタで自転車と歩行者数の計測を6:00～18:00の12時間行い、確定値とする。	
指標2	防災対策に対する地域満足度の向上	ポイント(5段階評価)	2.85	H15	3.50	H22	確定	2.95		あり	平成23年7月末	対象地区の住民(300人)を無作為抽出し、満足度調査を実施する。防災対策について、5段階評価(5点満点)で評価してもらい、対象地区(昭和、滝呂)の評価値の平均を確定値とする。	
指標3	犯罪件数の抑制	件数/年	6	H17	4	H22	確定	3		あり	平成23年5月	管内警察署へのヒアリングにより、平成22年年度の児童が巻き込まれた犯罪件数を集計し、確定値とする。	
指標4				H		H	確定			あり			
指標5				H		H	確定			あり			
その他の数値指標1	防災施設整備率	%	23.1	H17			確定	61.5			平成23年5月	地区内の広域避難所数と防災施設設置数を確認し、確定値とする。	
その他の数値指標2				H			確定						
その他の数値指標3				H			確定						

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		事後評価を見据えた指標の目標値設定
	うまく いかなかった点	防災対策に対する地域満足度の向上は、事業効果が顕在化しにくい評価項目であった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		事後評価を見据えた指標の設定・データの計測
	うまく いかなかった点	合併前の笠原地区の従前値が計測できていないことから、事後評価時に結果が反映できなかった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	多治見市笠原地域審議会を活用し、地域住民の意見を活かしたまちづくりが行われた。	計画段階からの地域住民の参画
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・庁内会議をワークショップ形式で行ったことにより、参加者の広い意見を聞くことができた。 ・市政への満足度は、隔年で実施している市民意識調査で把握が可能であるため、途中で効果を 確認しながら事業を実施することができた。	ワークショップ形式による幅広い意見の聴取 目標を定量化する指標のモニタリング(達成度確 認)による事業への反映
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点	まちづくりの観点から、既存のものを活用(旧笠原鉄道跡)を利用したことにより、合併による一体感 や地域内の交流がスムーズに行えた。	市民に受け入れられやすい事業の実施
	うまく いかなかった点		

添付様式6 - 参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

[今後の都市再生整備計画事業の活用予定]

多治見駅周辺地区において、都市再生整備計画(平成23年度～平成27年度)を作成し、社会資本整備総合交付金を活用して事業を展開する。

[今後の事後評価を予定する地区]

本市においては、平成23年度に精華地区、平成27年度に多治見駅周辺地区において事後評価を実施予定。当地区の事後評価の経験を踏まえて、円滑に事後評価を実施したい。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成22年10月5日～10月20日	平成22年10月5日～10月20日	担当課への郵便、ファックス、Eメール等	道路河川課(都市再生整備計画主管課)
広報掲載・回覧・個別配布	広報紙に市のホームページ及び担当課窓口で原案を公表している旨を掲載	平成22年10月1日発刊 広報たじみ平成22年10月1日号	平成22年10月5日～10月20日		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	窓口閲覧(道路河川課)	平成22年10月5日～10月20日	平成22年10月5日～10月20日		

住民の意見	なし				
-------	----	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	松本 直司(名古屋工業大学大学院工学研究科 教授)	平成22年11月26日(金)	道路河川課	多治見市都市再生整備計画事業(まちづくり交付金)評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	志村 稔博(陶都信用農業協同組合 経済本部 元理事) 渡邊 勝利(東濃信用金庫 会長) 梶田 廣幸(多治見市議会 駅周辺まちづくり特別委員会委員長) 柴田 雅也(多治見市議会 建設常任委員会委員長) 加藤 文恵(市民)				

審議事項 1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・指標2「防災対策に対する地域満足度の向上」について、当該地区は急傾斜地域を含んでおり、これに対する不安感から防災に対する満足度は向上していないという意見を得た。また、目標達成度については が妥当であると判断された。
	実施過程の評価	・実施過程の評価について適正に実施されたことが確認された。
	効果発現要因の整理	・効果発現要因の整理は適正に実施されたことが確認された。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案の公表は適正に実施されたことが確認された。
	その他	・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・陶彩の径について、陶彩感が無いという指摘を受けたが、地元のタイル組合からタイルの提供を受けて、擁壁壁面に貼り付ける予定となっていることを紹介し、了承を得た。この活動に地域の小中学生を参加させて、地域への愛着心の醸成など図れたらよいという意見を得た。 ・植栽や花壇に水やりをする場合、遠くまで水を運ばなければならず、苦慮している。雨水を利用した水がめ等を整備すれば、水やりによる住民参加活動が促進されるという意見を得た。
	フォローアップ	・フォローアップ時のアンケート調査には、当該地区の自治会を利用してアンケート調査を実施してはどうかという意見があった。
	その他	・特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・特になし	